



No.26
2017年
10月10日
発行
憲法9条
桂川の会

8月12日(土)桂川スーパーマツモトで松尾9条の会と合同で署名行動に取り組みました。自転車で走り去る人が多い中、自分から近づき「私ら、戦争を知っている者やし、絶対に戦争だけはあかんと思うんや。安倍さんを早よめさなあかん！」と年配の女性。赤ちゃんづれのママは「大事な事ですよ。暑い中ご苦労様です。」と署名をされました。この日は15筆集まりました。

3000万人署名スタート

安倍内閣の戦争法推進・憲法9条改悪のねらいに対して、ますます広がる国民の声を受けて去る9月3日、澤地久枝さん、有馬頼底さん等著名人11名が連名して「安倍9条改憲ノー！全国市民アクション」の署名が始まりました。すぐさま広範な市民が応えて、東京中野ホールに1500人が集まり「キック・オフ集会」が開かれました。

「一人一人が多様なやり方で民主主義を守っていくことが大切だ」と、浜矩子同志社大教授は語りました。この呼びかけは即座に全国各地に、広がっています。皆さんのご協力宜しくお願いします。

(上野西町 藤井のぶゆき)

人を好きだというように
門倉さとし 詞
人を好きだというように
平和が好きといえるよう
いくさはいやといえるよう
あたりまえのことを
あたりまえにだれかが
いつでも語れる時代 この9条
かけがいのない人間の 愛の9条

花を好きだというように
平和が好きといえるよう
いくさはいやといえるよう
この美しい星を 美しいと誰もが
自然に歌える地上 この憲法は
かけがいのない地球の平和の憲法

(いつも仲間とうたっている平和の歌です。)

9条を変えるは平和を捨てること昭和二十年に得たる光を

十月には衆議院議員の総選挙が行われることになりました。心の中で憲法9条を大切に思っている人たちが、自分の思いを素直に表明して憲法を守るよう願っています。憲法9条を手放したら、もうおしまいですから。

この人たちは普段、戦争反対だとか、憲法9条を守ろうと、他人に話しかけている人ではありません。しかし、心の中では戦争を憎み、憲法9条を大切に思っている人たちです。

私も国民学校三年生であったから、敗戦時の戦場を知りません。この人たちの最も共通した思い出は敗戦を知った時、ほつとしたという事でした。いかに戦争は人間の自由をしばっていたことか。一方、敗戦により、人々の生活は極端に苦しくなつてゆきました。食糧をはじめとして、すべての物資が不足を超えて無いに等しい状況になりました。短歌会に出席している人たちはその思い出に同感し、共感しました。そして、戦争は悪だと結んで次の歌の批評に移りました。

ある短歌会にて

松田 基宏 (「会代表世話人・三ノ宮町」)

ある小人数の短歌会での事です。出席者は皆、戦前戦中生まれの人達であり、高齢です。北朝鮮のミサイル発射を詠んだ歌の批評から政治情勢の話に脱線してしまい、北朝鮮は八十年前程前の日本そのものだという話になり、戦時下当時の悲惨さの体験を述べ合うひとときとなりました。私以外は女性ですから、いわゆる「銃後の人」ばかりなのです。